



■ 武蔵野市の課題

1. 家賃・物価が高騰で29-39歳の武蔵野市を支持する定住者が少ない
2. 武蔵野市を象徴する緑・自然が減少
3. 住宅地による入り組んだ道
4. 建物の圧迫感

■ ターゲット 自然に触れたい・都会でも子供に触れさせたいと思うファミリーや一人暮らしの大学生と社会人

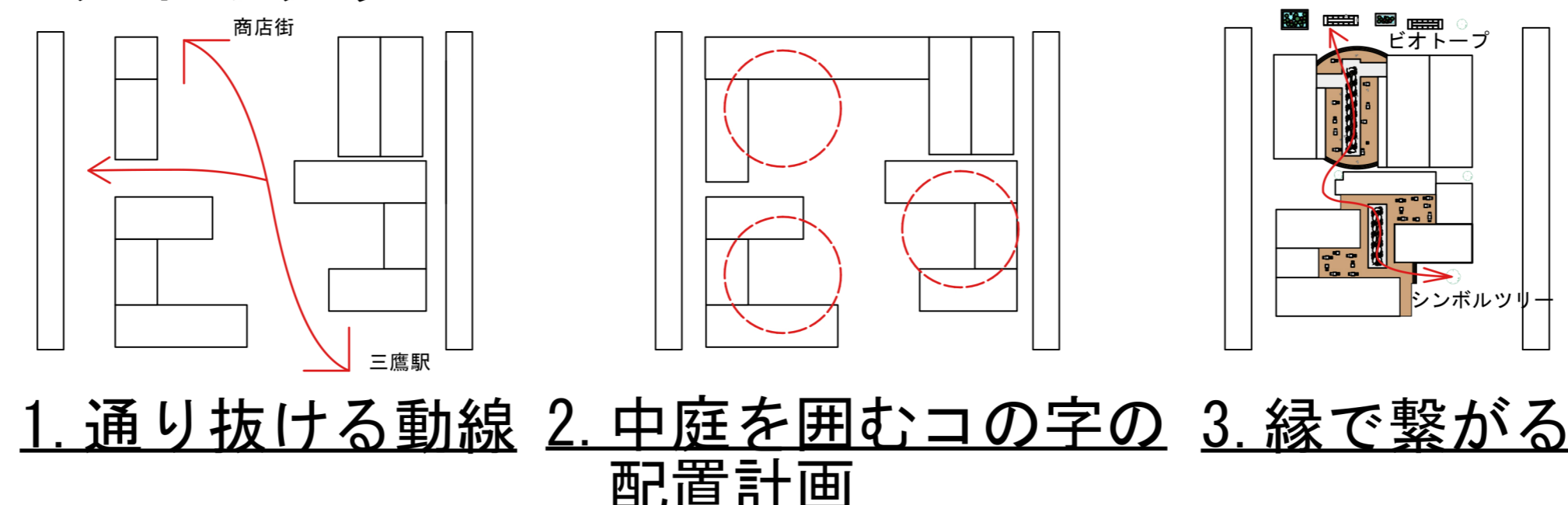
■ コンセプト

自然×学べる集合住宅

ビオトープを通して移住者や近隣の人々との交流が生まれ、子供たちは楽しく学びながら自然と触れ合うことができる



■ ダイアグラム



敷地内を通り抜けられる動線を配置し、散歩道としても利用できる

コミュニティの場に植栽を多く配置し、秘密基地のような安心感のある空間が出来る

建物内の動線を緑で繋げ、ビオトープからシンボルツリーへと誘導するように計画

■ 計画敷地

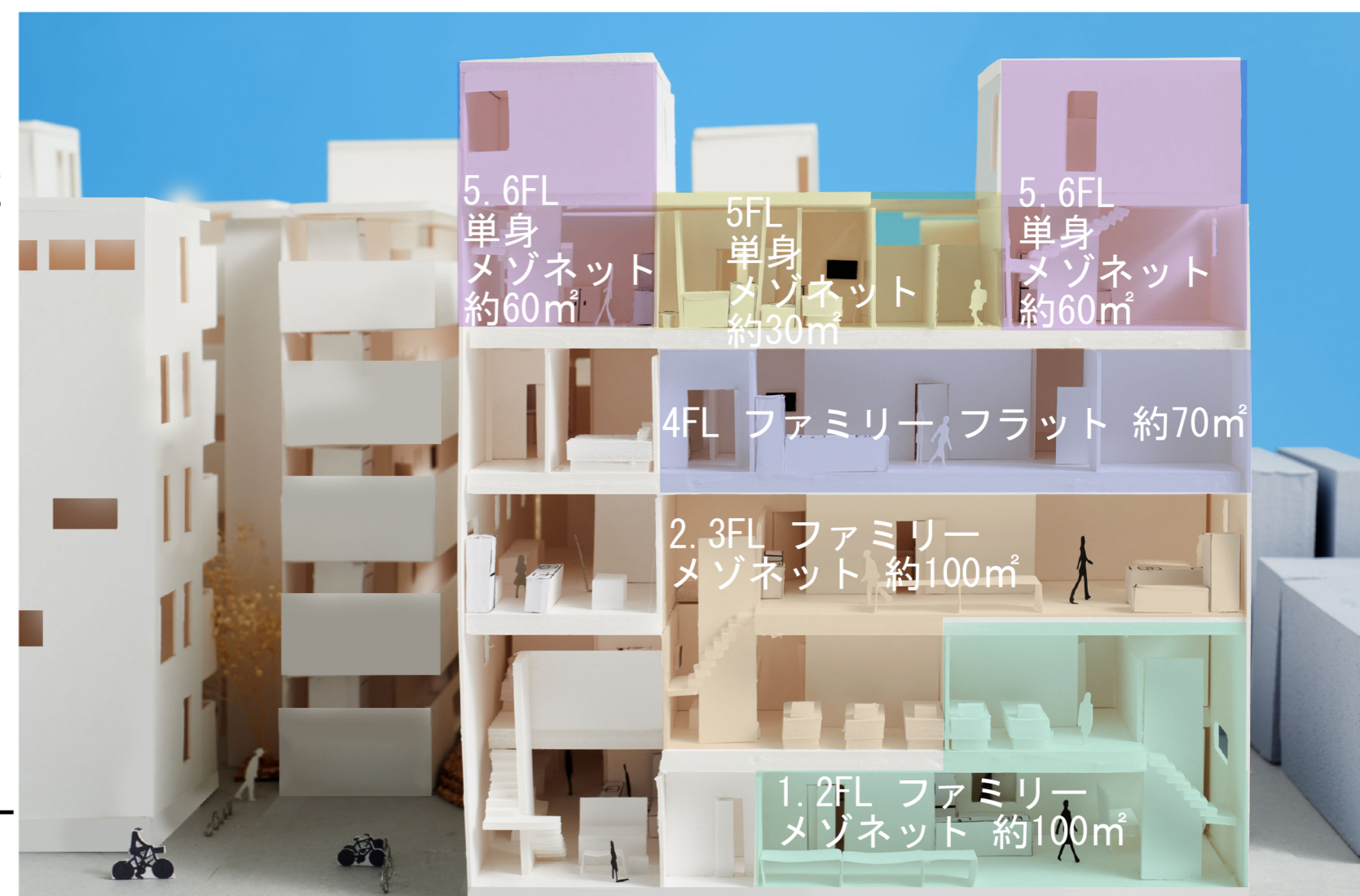


計画地：東京都武蔵野市西久保3-10-2
用途地域：準工業地域
建蔽率 60% 容積率 200%
敷地面積：約2,200㎡

■ 住戸概要

1FL-4FL	ファミリー	メゾネット	約100㎡	20戸
5FL-6FL	单身	メゾネット	約60㎡	8戸
5FL	单身	フラット	約30㎡	12戸

合計49戸



「閉ざされた価値観への提唱 - 縁 - 」 浅野杏奈

コロナの影響でオンライン授業やリモートワークが普及し、直接人と会う時間が減少し、第三者との「縁」が減少してきたと感じた。そこで、武蔵野市の課題を踏まえアフターコロナの価値観を見据えて多世代が集うことができる集合住宅を提案する。